

## 納骨について

1. 納骨できるお骨は火葬して骨壺に収めた動物のお骨です(犬、猫、小鳥、うさぎ、ハムスター、モルモットなどの小動物)。
2. 納骨式は毎月 10 日、14 時から動物霊堂前にて行います(雨天の場合は本堂内にて行います)。ご自宅からお骨をお持ちいただく場合は、13 時から受付をいたしますので、お早めにご参集ください。14 時より光明寺ご導師様にご供養していただいた後に納骨いたします。
3. 一度納骨したお骨は、理由の如何を問わずお返しえできません。お骨は納骨の約一年後に納骨堂地下のかろうど（唐櫃）に合同埋葬いたします。
4. 動物慰靈祭を春秋年 2 回お彼岸後の日曜日、光明寺様本堂において執り行います。日時については開催の約一ヶ月前に葉書でお知らせいたします。



光明寺山門



浄土宗 大本山 光明寺  
鎌倉市材木座 6-17-19

### 【アクセス】

JR 横須賀線鎌倉駅より  
京急バスにて約 10 分  
小坪経由逗子駅ゆき  
光明寺前バス停下車

JR 横須賀線逗子駅または  
京急新逗子駅より  
京急バスにて約 20 分  
小坪経由鎌倉駅ゆき  
光明寺前バス停下車

春と秋の動物慰靈祭にお越しの際は、多くの方が参拝されますので公共交通機関を御利用ください。

毎月 10 日の納骨日には光明寺山門前に駐車できます。

## 鎌倉材木座 光明寺

動物霊堂に納骨  
されます皆様に



湘南動物霊堂奉贊会

山内 静夫

春と秋の彼岸の後の日曜日に、材木座の光明寺で毎年動物慰靈祭が行われている。昨年九月に、五、六年かわいがった猫に死なれ、そこの動物慰靈碑に納骨したので、初めて参加した。

まず驚いたのは、駅前のバス乗り場の行列である。日曜日とは言え、材木座・小坪方面行きのバスは比較的観光客が少ないのだが、その延々たる行列をよくよく見ると殆ど地元の人達で、慰靈祭のお詣り客とわかつた。これでは、とても人間のお彼岸と一緒ににはできないと納得した。

光明寺の本堂の中は、お詣りの人達で一杯に埋まっていた。私たち夫婦も、人々の間に割り込ませてもらつた。見回すと、殆どが年配の夫婦づれである。核家族化が進んで、子供たちは夫々独立して家庭をもち、広めの家に残つた親たちはペットを飼つて日々を愉しむ、老齢社会の色が濃い鎌倉のひとつ姿だなどと思った。国会議員や県会議員さんの来賓挨拶は、やや場にそぐわない感もあつたが、法要のために読み上げる愛犬、愛猫の名が何と小一時間も続き、ご自分のペットの名が読み上げられると、次々にそつと席を立つて出てゆく、そんな時間がゆったり流れしていくような光景を、久しぶりに見たような気がした。終わりに近くなつて、わが愛猫トラの名が読み上げられた。それまで随分しゃれた横文字名前ばかりで、坊さんが読みづらそうにしていたのに、トラの名は一瞬にして消えてしまつたようで、何と月並みな名を付けてしまつたものだと、少々悔やむ気もした。

慰靈碑のまわりには、七、八匹のノラ猫がいて、供物の猫の餌で満ち足りたような顔をしている。それを眺めながら、うちのトラほどの器量のいいのはいないな、と独り心の中でニヤつきながら、いい気分で光明寺の山門を後にした。

この動物靈堂は、湘南獣医師会(鎌倉市、逗子市、葉山町の開業獣医師)が、昭和39年(1964年)に光明寺様にお願いし、建立させていただきました。当時は動物靈園がほとんどない時代で、犬・猫が死亡すると、その亡骸を海岸や河川等に遺棄されることが多々ありました。そのような状況に心を痛めた当時の湘南獣医師会会員が、「動物たちを供養する場を作つてあげたい」と、光明寺様にお願いし、資金を出し合い建立したものです。

天照山蓮華院光明寺は鎌倉時代の寛元元年(1243年)に開かれたお寺で、京都の知恩院、東京の増上寺に並ぶ浄土宗の大本山です。江戸時代には徳川幕府の関東十八檀林(学問所)の筆頭として栄えた歴史あるお寺です。動物慰靈祭が執り行われる本堂は元禄11年(1698年)の建立で、現在も創建当時の様式がよく保たれ、国の重要文化財に指定されています。

このような由緒ある寺院に建立されている動物靈堂は、全国ほかに類はないでしょう。

湘南獣医師会会員は、先人の思いを受け継ぎ、末永く動物靈堂を管理してまいりますので動物達の靈も安らかに永眠することと存じます。



動物慰靈祭の光明寺本堂



山内静夫(やまのうち しづお)氏

1925年 作家・里見淳の四男として鎌倉に生まれる。

松竹大船撮影所に製作担当として入社、小津安二郎監督とともに、1956年「早春」、1958年「彼岸花」、1960年「秋日和」の製作を手がける。松竹株式会社取締役、株式会社鎌倉ケーブルコミュニケーションズ代表取締役社長、鎌倉文学館館長、鎌倉市芸術文化振興財団理事長を歴任。現・鎌倉同人会理事長。

山内静夫著 「谷戸の風」より

鎌倉ケーブルコミュニケーションズ刊